

第二回俳句賞「25」奨励賞
回りきる

混成チーム

夏の凶鑑ひらけば透ける翅いちまい
星を踏む音に似てゐて氷菓食ふ
スナメリの骨に指あり夏の月
草笛を吹く星々の集ふ丘
サイダーの氷残され雲に色
画用紙の一面を青夏休
追伸のながき手紙や秋暑し
花のない花瓶の水や月清か
彼岸花飾つて部屋のほの暗し
語学書の見返しに地図秋灯
青空は掃かれ青なり芒原
末枯や公民館に書架すこし
先人の落書きの濃き冬日かな
ホットレモン持つて最後尾に並ぶ
光散らしつつ回りきるスケート靴
城跡は堀のみ綿虫留まるのみ
短日や画鋏の針の右曲り
オリオンのやエコー写真の熱に触れ
がらばるのやめますレタス真つ二つ
鉛筆の屑かをりけり春の昼
春風を掴む手に繋がれてゐる
雨は雲のほひを受けて春愁ふ
陽炎や大木の根を踏んでゐる
C Dに熱のこりけり春の果
風光るヒロロの名を呼ぶ準備